

問1 北陸地方の地場産業や伝統的工芸品について述べた次の文のうち、歴史的背景や地理的特徴をふまえた正しい記述はどれですか。 (2019年

滋賀公立入試 類似)

- 江戸時代に藩の政策で職人が集められ、冬の農閑期を利用して技術が磨かれ継承されてきた
- 明治時代以降、雪の影響を避けるために地元の伝統的な工場はすべて太平洋側へ移転した
- 原材料をすべて海外からの輸入に頼ることで、大規模な貿易港をもつ都市を中心に発展した
- 稲作が不向きな土地柄であったため、江戸時代から農業を完全に廃止して工業に特化してきた

問2 石川県で「輪島塗」や「加賀友禅」といった多くの伝統的工芸品が発展し、現代まで受け継がれてきた歴史的な背景を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 茨城県公立入試 類似)

- 江戸時代に加賀藩が、豊かな経済力を背景に文化や産業の振興に力を入れ、職人を保護・育成したため。
- 明治時代に政府が、外貨を獲得するための輸出用製品として北陸地方での生産を全国で唯一推奨したため。
- 日本海を航行する北前船の寄港地として、大陸から直接最新の工芸技術が導入されたため。
- 戦後の高度経済成長期に、農村の冬の副業として全国に先駆けて新しい工芸品が開発されたため。

問3 日本の気候区分のうち、1月の最低気温が2度前後まで下がり、冬の降水量が夏の約2.6倍に達するような、冬に降水が集中する特徴を持つ気候帯はどれですか。 (2023年 沖縄公立入試 類似)

- 日本海側の気候
- 太平洋側の気候
- 瀬戸内の気候
- 中央高地の気候

問4 中部地方の日本海側が、世界でも有数の豪雪地帯となっている理由について述べた文として正しいものを、海流の性質と季節風の関係から選びなさい。 (2016年 兵庫公立入試 類似)

- 日本海を北上する暖流の対馬海流の上空で水蒸気が発生し、それが湿った北西の季節風によって運ばれ、高い山脈に突き当たるため。
- 日本海を南下する寒流のリマン海流の影響で気温が下がり、太平洋側から吹き込む季節風が冷やされて雪に変わるため。
- 日本海を北上する寒流の親潮が海水を冷却し、北東から吹く湿った季節風が中部地方の平野部で冷やされて雪を降らせるため。
- 太平洋側を流れる暖流の黒潮から分かれた対馬海流が、冬の乾燥した季節風を冷やすことで、日本海側に霧を発生させるため。

問5 東海工業地域において、輸送用機械や製紙、楽器といった多種多様な製造業が発達した背景や地理的要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 山形公立入試 類似)

- 太平洋沿岸の平野部に位置し、東海道新幹線や東名高速道路などの交通網が整備されているため、物流の利便性が高く、さらに富士山周辺の豊富な水資源を工業用水として活用できたこと。
- 中京工業地帯の過密化を避けるために、政府の計画によって大規模な埋め立てが行われ、そこに鉄鋼業や石油化学工業などの基礎素材産業が誘致されたこと。
- 古くから養蚕業が盛んであったため、そこから発展した繊維工業の技術を基盤として、戦後は一貫して電子部品や半導体などの先端技術産業に特化したこと。
- 日本最大の消費地である東京都に隣接しているため、生鮮食品の加工や衣類などの軽工業から始まり、現在は重化学工業が中心となっていること。

問6 中部地方のある県の統計において、人口が約八十五万人と比較的少なく、農業産出額に占める果物の割合が野菜や米を大きく上回っている県があります。この県の農業の特色について説明したものととして正しいものはどれですか。 (2016年 兵庫公立入試 類似)

- 扇状地を利用してぶどうなどの生産が盛んであり、消費者に収穫体験を提供する観光農園も多く見られる。
- シラス台地が広がる地形を活かして、さつまいもの生産や畜産業が大規模に行われている。
- 日照時間が長い沿岸部の傾斜地を利用して、茶の栽培が盛んに行われ、全国的なブランドとなっている。
- 高冷地でのレタスやキャベツの栽培が中心で、保冷トラックを用いて大消費地へ出荷している。

問7 山梨県などの盆地の周辺部に見られる扇状地において、古くからブドウやモモなどの果樹園として土地が利用されてきた理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 青森公立入試 類似)

- 土砂の粒が大きく隙間が多いため、水はけが良いから。
- 標高が非常に高く、夏でも冷涼な気候が続くから。
- 河口に近いから、常に湿り気のある粘土質の土壌だから。
- 火山灰が厚く降り積もっており、稲作には適さないから。

問8 日本の中部地方の内陸部、特に周囲を高い山々に囲まれた盆地状の地域では、山地が壁となることで季節風の影響を受けにくく、年間の降水量が少なくなる傾向があります。このような地域において、不足しがちな農業用水を確保する目的で古くから作られてきた人工的な池を何と呼びますか。 (2026年 愛媛公立入試 類似)

- ため池
- 遊水池
- 砂防ダム
- 地下水路

問9 静岡県などの中部地方の太平洋沿岸部に見られる気候について、冬の気温が平均5度前後と高く、夏に降水量が多いという特色を持つ気候を何とよみますか。 (2023年 福岡公立入試 類似)

- 太平洋側の気候
- 日本海側の気候
- 中央高地の気候
- 瀬戸内の気候

問10 愛知県瀬戸市は、古くから陶磁器の生産が盛んな「地場産業」の町として知られています。近年、この伝統的な技術を応用して製造され、自動車工業などの先端産業に欠かせない素材となっているものを次の中から選びなさい。 (2025年 滋賀公立入試 類似)

- ファインセラミックス
- 炭素繊維 (カーボンファイバー)
- シリコンウエハー
- 液晶パネル

問11 中京工業地帯の統計資料において、輸送用機械の出荷額割合が他を圧倒している背景には、豊田市周辺で行われているどのような生産上の工夫がありますか。 (2019年 千葉公立入試 類似)

- 必要な部品を必要な時に必要な分だけ納品させることで、在庫の無駄を徹底して省いている。
- 製品のすべてを海外から輸入した部品で組み立てることで、国内の製造コストを抑えている。
- 原料の輸入に有利な四日市市の石油コンビナート内に、すべての部品工場を集約させている。
- 一つの巨大な工場内で、原材料の精製から最終組み立てまでを完結させる一貫生産を行っている。

問12 中部地方の各県の工業出荷額の内訳をまとめた統計において、輸送用機械の割合が極めて高い愛知県や静岡県に対し、食料品、化学工業、電子部品・デバイス工業などがバランスよく含まれていることが特徴である県はどこですか。 (2024年 静岡公立入試 類似)

- 石川県
- 福井県
- 富山県
- 長野県

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 江戸時代に藩の政策で職人が集められ、冬の農閑期を利用して技術が磨かれ継承されてきた	北陸地方では、江戸時代初期に加賀藩などの藩主が産業振興のために各地から優れた職人を招き入れる政策をとりました。これが、冬の厳しい降雪期間に室内で行う手仕事と結びつき、現代まで続く輪島塗や加賀友禅、燕三条の金属加工といった地場産業の基盤となりました。また、北陸地方は日本有数の稲作地帯でもあり、農業と工業が密接に関わって発展してきたのが特徴です。
問2	答え 1 江戸時代に加賀藩が、豊かな経済力を背景に文化や産業の振興に力を入れ、職人を保護・育成したため。	石川県で伝統的工芸品が盛んになったのは、江戸時代の加賀藩（前田氏）の政策が大きく影響しています。加賀藩は「加賀御細工所」を設けるなどして、全国から優れた職人を招き、工芸を奨励しました。また、雪深い北陸地方において、冬の間の貴重な現金収入源（副業）として高度な技術が定着し、現代まで継承される要因となりました。
問3	答え 1 日本海側の気候	日本海側の気候は、北西の季節風の影響を強く受けるため、12月から1月にかけての降水量（降雪量）が非常に多くなるのが最大の特徴です。提示された統計情報の通り、夏の降水量が150mm程度であるのに対し、冬の降水量が400mmに達する傾向は、太平洋側の「冬に乾燥し晴天が続く」特徴や、瀬戸内の「年間を通じて降水量が少ない」特徴とは明らかに異なります。
問4	答え 1 日本海を北上する暖流の対馬海流の上空で水蒸気が発生し、それが湿った北西の季節風によって運ばれ、高い山脈に突き当たるため。	日本海側を流れる暖流である対馬海流は、冬でも海水温が比較的高いため、その上空で多くの水蒸気が発生します。大陸から吹く冷たく乾いた北西の季節風が日本海を渡る際、この水蒸気をたっぷりと含んで湿った空気になります。この空気が中部地方の険しい山地（越後山脈など）にぶつかって上昇することで、日本海側に大量の雪を降らせる仕組みになっています。
問5	答え 1 太平洋沿岸の平野部に位置し、東海道新幹線や東名高速道路などの交通網が整備されているため、物流の利便性が高く、さらに富士山周辺の豊かな水資源を工業用水として活用してきたこと。	東海工業地域の発展には、東西を結ぶ主要な交通軸（東名高速道路など）による物流の効率性と、製紙業などに不可欠な富士山の豊富な地下水（工業用水）という自然条件の両方が大きく寄与しています。これにより、輸送用機械（オートバイなど）や製紙といった多様な産業が太平洋沿岸に定着しました。
問6	答え 1 扇状地を利用してぶどうなどの生産が盛んであり、消費者に収穫体験を提供する観光農園も多く見られる。	統計に示された人口規模や農業産出額の内訳から、この県は山梨県であると判断できます。山梨県はぶどうや桃の生産量が日本トップクラスであり、その多くは甲府盆地周辺の扇状地で栽培されています。また、東京などの大都市圏に近い立地を活かし、単に生産・出荷だけでなく、消費者が直接訪れて果物狩りを楽しむ「観光農園」が数多く運営されていることも大きな特徴です。
問7	答え 1 土砂の粒が大きく隙間が多いため、水はけが良いから。	扇状地は、山から流れてきた砂や礫（小石）が堆積してできているため、水が地下に浸透しやすく、非常に水はけが良いという特徴があります。この性質は、根が腐りやすく乾燥した環境を好む果樹の栽培には非常に適していますが、一方で水を貯める必要がある水田には不向きであったため、伝統的に果樹園として利用されてきました。
問8	答え 1 ため池	中部地方の中央高地は、高い山々に囲まれているために湿った季節風が遮られ、全国的に見ても雨や雪が少ない地域です。そのため、古くから雨水などを貯めておく「ため池」を築くことで、稲作などの農業に必要な水を安定して供給できるように工夫されてきました。
問9	答え 1 太平洋側の気候	中部地方の太平洋側は、冬に北西からの季節風が山脈を越えてくる際、水分を失って乾燥した晴天の日が多くなるため、冬の気温が高い（氷点下になりにくい）のが特徴です。また、夏は太平洋からの湿った季節風や台風の影響で降水量が多くなります。これに対し、日本海側は冬に雪が多く、中央高地は標高の影響で一年を通して気温が低めで雨が少なくなります。
問10	答え 1 ファインセラミックス	瀬戸市は良質な粘土に恵まれ、古くから「瀬戸物」という言葉の語源になるほど陶磁器の生産が発展してきました。この陶磁器の原料を精製したり、高温で焼き上げたりする伝統的な技術が、現代では硬度や耐熱性に優れた「ファインセラミックス」の製造に活かされています。これは、自動車のエンジン部品や電子機器などの先端技術分野で幅広く利用されており、伝統技術が現代の産業を支える好例となっています。
問11	答え 1 必要な部品を必要な時に必要な分だけ納品させることで、在庫の無駄を徹底して省いている。	豊田市の自動車産業では、生産効率を極限まで高めるために、部品の在庫を極力持たない「ジャストインタイム」と呼ばれる仕組みが有名です。このシステムを成立させるためには、完成車工場の近くに関連企業や部品工場が密接に集まっている必要があり、豊田市周辺にはピラミッド型の強固な協力体制が築かれています。これが、中京工業地帯における圧倒的な輸送用機械のシェアにつながっています。
問12	答え 1 石川県	中部地方の中でも北陸地方に位置する石川県は、特定の産業に特化した中京工業地帯の県とは異なり、電子部品や機械、食料品などがバランスよく生産されているのが特徴です。また、伝統的工芸品から発展した機械工業や、良質な水を活用した食料品製造も盛んに行われています。